

# 日中対照から見る未来について語る表現 ——“会”を中心として——

孫 樹 喬

## 1. 問題提起

孫 (2018b) では意志を表す中国語の“会”の意味機能について考察を行ったが、本研究では、それに関連して、聞き手を意識した語りの文における「未来（確かな予測）」を表す“会”を中心に、その意味機能を見てみたい。研究のきっかけとなったのは、『あなたの人生の物語』というSF小説である。この小説は英語版がオリジナルであり、日本語版と中国版も出版されている。ストーリーの展開は主人公「わたし」の過去の経験と娘にかかわる確実な未来のシーンが交互に語られることになっている。未来の場面を語るシーンでは、英語は“will” “will be” という典型的な未来のテンスの表現になっているが、日本語版、中国語版はどのように表現されているのか非常に興味深いところである。特に、今まで「未来」を表す表現として、それほど注目されていない“会”の特徴を、「スル」などの表現との比較によって更に明確にしたい。

## 2. 「未来」を表す表現形式についての先行研究

### (1) 先行研究についての紹介

テンスについて、高橋 (2005) は「動詞のテンスは、動詞の表す運動（または、その一定の局面）が発話時を基準として、それより前（過去）かそれと同時に（現在）か、それよりあと（未来）かをあらわしわけることについてのカテゴリーである (p. 83)」と述べている。

英語と日本語は両方ともテンスを表す文法形式を持つ言語である。英語で未来のテンスを表す表現は“will”である。一方、日本語のテンスは、述語

---

『コミュニカール』10 (2021) 21-47

©2021 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会

の形態によって区別されている。動詞述語の「ルー<sup>タ</sup>」の対立は、テンスの基本的な形であり、「ル形」は非過去を表し、「タ」形は過去を表す（工藤1995）。動作動詞の場合、基本的に事態が発話時以降（未来）に成立することを表す。一方、状態性述語の場合、基本的に事態が発話時と同じ時点（現在）に成立していることを表す（日本語記述文法研究会2007）。

高橋（2005）では、日本語の動詞をアスペクト・テンスの観点からつぎの4つの語形をもつことになるかと述べている。

表1 高橋（2005）による日本語のアスペクト・テンス体系

アスペクト テンス	完成相	継続相
非過去形	する	している
過去形	した	していた

庵（2019）では、日本語のテンス・アスペクト体系を記述し、テンスが文法カテゴリーである英語と、枠組みとして比較している。それぞれの基本用法の体系を次のように並べている。

表2 庵（2019）による日本語のテンス・アスペクト体系（基本用法）

	完成相	未完成相			ー <sup>ル</sup> / <sup>タ</sup>
		対立なし	進行中	結果残存	
	非状態動詞	状態動詞	非変化動詞	変化動詞 移動動詞	
未来	ル形	ル形	テイル形	テイル形	観察時
現在	×	ル形	テイル形	テイル形	
過去	タ形	タ形	テイタ形	テイタ形	

(庵2019: 12)

表3 庵（2019）英語のテンス・アスペクト体系

	完成相	未完成相		
		対立なし	進行中	結果残存
	非状態動詞	状態動詞	非変化動詞 移動動詞	変化動詞
未来	will + 原形	will + 原形	will be + 現分	will be + 過分
現在	×	現在形	is+ 現分	is+ 過分
過去	過去形	過去形	was+ 現分	was+ 過分

(庵2019: 12)

上述の研究から、英語は“will”を、日本語は「ル形(する)」を未来のテンスを表す典型的な表現と認められていることがわかる。

仁田(2019)では、ル形が未来を表す場合の特徴について、次のように述べている。「動き動詞が具体的な現象として現れる顕在的な動きを表す場合のル形は未来を表す」とし、「ル形未来が可能になるためには、その事態の未来における発生・出現を発話時において、話し手が予測というあり方で把握できなければならないし、予定としては把握できることが必要である。予測可能・予定可能であること、そしてその裏返しとして直接的な補足の不可、というモダリティ的な在り方を帯びているのが、ル形未来の特性である。」と述べている。(仁田2019:68)

一方、従来、中国語にはテンスの文法カテゴリーがないとされ、未来のテンスを表す形式の研究もそれほど多くない。

張万禾・石毓秀(2008)では、中国語の未来のテンスの概念について検討し、中国語の未来を表す標識の機能は主に時間距離によって区別されているとしている。また、“要”を未来の標識の主要形式とし、その意味機能について詳しく述べてはいるが、他の形式については、“将来”、“回头”、“快”、“就”等を取り上げ、“会”の未来を表す用法については言及していない。張莉(2014)も未来のテンスを表す現代中国語の表現手段について述べているが、“会”は未来のテンスを表す表現手段として認められていない。

上述の研究から中国語文法の研究では(特に近年の研究では)、“要”“将”等の表現を典型的な未来のテンスを表す表現として認め、“会”の未来を表す用法をそれほど重要視しない傾向がある。一方、英語と中国語のテンスの表現形式に関する対照研究では、“会”も未来のテンスを表す表現として一般的に認められる傾向がある。梁(2012)では、英語と中国語の未来を表す表現の意味特徴について検討し、中国語の未来を表す表現として、“要/将”、“会”、“得”、“了”を挙げている。于(2014)は、現実相関性と時間的距離性について英語と中国語を比較し、中国語の“会/将会/将要”が未来のテンスを表し、“会”は未来のモーダル的な意味を表し、発話後の動作行為を表すと述べている。

以上、英語、日本語、中国語の未来のテンスを表す表現の先行研究につい

て見てみた。英語と日本語には広く認められているテンスの文法カテゴリー、特に未来を表す特定の表現がある一方、中国語にはまだ広く認められるテンスを表す文法カテゴリーがなく、未来のテンスを表す表現形式について、研究者によって見解が違ふ現象が多くみられる。特に、本研究で中心的に扱う“会”の未来を表す用法についての研究は、不十分であることを認めざるを得ない。

## (2) 未来を表す表現について対照研究をする必要性

ここでは、中国語の未来を表す表現の特徴を明らかにするために、英語や日本語との対照を行う必要性について述べたい。

上述のように英語と日本語は基本的に、テンスを表す文法形式を持ち、形式に基づき、その意味機能を研究することが可能である。それに対し、中国語はテンスを表す文法形式が文法カテゴリーとして成立せず、形式のみからのアプローチは非常に困難である。特に一般的に、未来のテンスを表す形式とされる助動詞は、テンスの意味だけではなく、モーダルな意味もあるので、未来のテンスを表す専用形式として認めにくい。従って、形式からではなく、意味を軸に、その意味がどのような形式によって表されているのか、更にもどのような機能を持つのかからアプローチする研究方法は、中国語のモーダル動詞の研究を進めるのに有効的だと考えられる。更に、テンスの文法カテゴリーにおいて形式と意味との関係が基本的に固定化している英語・日本語と、中国語を比較することによって、言語間の異同だけではなく、各言語の特徴を明確にすることができる。

## (3) 無標形式と有標形式の対立

本研究にとって重要な基盤となるもう一つ概念は、無標形式と有標形式の対立である。特に、未来のテンスを表す表現形式にはこのような対立を認めることは、非常に重要である。まず、無標形式と有標形式はそれぞれの概念について見てみよう。

益岡 (2007) では、述語における無標形式 (unmarked form) と有標形式 (marked form) の対立について、次のように述べている。

無標形式と有標形式の対立とは、ある標識 (marker) の有無によって対立関係が構成されるものをいう。例えば、動詞の普通体と丁寧体の対立は、「食べる」と「食べます」のように、後者に‘mas という標識が存在し、前者にはそれが欠けているという点で、無標形式と有標形式の対立を構成する。このような無標形式と有標形式の対立が表す意味の対立は語彙的なものではなく、文法的なものである。(p. 8)

更に、有標形式と無標形式の文法的な意味の違いについて、益岡 (2007) は仁田 (1997) の次の内容を引用している。

有標の形式は、有標であることによって、その文法カテゴリが有している類的な文法的意味を説教句的に帯びているが、無標の形式は、無標であることによって、類的な文法的意味から解放されることがある。(仁田 1997: 25)

実際に、筆者は中国語の意志表現を考える時、「無標形式－有標形式」の対立という概念を導入することによって、意志表現としての動詞無標形式を、助動詞“要”、“想”と同じレベルで比較し、ある程度中国語の意志表現の全体像を捉えることができた。今回は、「非現実性」などの面において、意志のモダリティと深くかかわっている未来を表す表現もこのようなアプローチが必要だと思われる。

### 3. 『あなたの人生の物語』の紹介と対訳形式についての調査

小説の設定は本研究に直接関わっているので、ここではまず『あなたの人生の物語』について簡単に紹介する。この小説は一人称小説である。語り手のルイスが優秀な言語学者であるゆえ、地球に到来した宇宙人と交流するプロジェクトに参加するという話になっている。宇宙人の言語や文字を解析し、習得したことによって、ルイスは宇宙人のような思惟様式を身につけ、過去や現在の出来事だけでなく、未来の出来事もすべて記憶のように頭に浮かべられるようになる。小説の文体は、ルイスがこれから生まれる娘を対象に

娘の人生の出来事を語るものであるため、聞き手の存在を意識した伝達の意図をもった文と考えてよいだろう。小説は、過去にどのように宇宙人と出会い、如何に宇宙人の言語を習得したかという回想と、未来に生まれてくる娘と一緒に過ごすシーンの描写とが交互に現れる構成である。小説の設定についてここで特に強調したいのは、小説は一人称による口語的な表現であることと、小説に現れる未来に関するシーンは未実現なことでありながらも確実なことであるという二つの点である。

本研究では、主に未来のいくつかのシーンについての描写に注目し、確実な「未来」を表す際の、日中両言語の用いられる表現についてそれぞれ見ていく。そして、現れる表現の割合や、他の表現との比較を通じて、“会”を中心に見ていきたい。

具体的には英語版の未来のシーンに使う未来のテンスのマーカ―の“will”が日本語版と中国語版ではそれぞれどのように表現されているかを調査し、調査結果に基づいて分析するという方法をとる。以下の表は、小説から未来の6つのシーンを選び、その中に現れる68の“will”の日本語、中国語の対訳形式をまとめたものである。

表4『あなたの人生の物語』の6つのシーンの“will”の  
日本語・中国語の対訳形式の内訳

言語	「will」の対訳形式						
	日本語				中国語		
形式	無標形式 (52)			有標形式(16)	有標形式 (56)		無標形式(12)
	ル形	中止形・テ形	そのほか	デショウ <sup>1</sup>	会	将	
数量	32	14	6	16	43	13	12
パーセント	47%	20%	9%	24%	63%	19%	18%

便宜上、最も割合の高い対訳形式を主要形式、比較的、割合が低い形式を副次形式と称する。日本語の主要形式は「ル形」で、中国語の主要形式は“会”である。日本語の「デショウ」形、「中止形・テ形」、中国語の“将”、無標形式は副次形式とする。

次の4章では、まず具体的な例を挙げながら、日本語と中国語のそれぞれの未来を表す表現を見る。

#### 4. 小説における「未来」を表す表現の具体的な形式

この部分では、未来の場面における“will”の具体的な対訳形式について、日本語と中国語の例をそれぞれ挙げながら見る。5章で未来を表す“会”の意味機能や特徴を議論する土台を築きたい。

##### 4.1 日本語の具体的な対訳形式

まず、数量的に最も多く現れるル形の例文について見てみよう<sup>2</sup>。

- ①あなたは電気のコードをひっぱりだして壁のコンセントにプラグを差し込みながら、そう言う。

英語原文：you'll say, seething as you unwind the power cord and plug it into the wall outlet.

- ②彼とわたしは身元を確認するためにいっしょに車で出かけ、長い沈黙の道りを過ごすことになる。

英語原文：He and I will drive out together to perform the identification, a long silent car ride.

- ③さほどもなく、ネルソンがわたしを迎えにやってくる。

英語原文：A little later on, Nelson will arrive to pick me up.

- ④あなたは考えこむ。

英語原文：You'll consider that.

- ⑤わたしはどっちつかずな愛想のいい表情を保とうと努めてる。

英語原文：I'll try to maintain a neutral, pleasant expression.

「スル」形のほかに、例⑤のような「シテイル」形のものも3例あるが、同じ「ル形」なので、便宜上、一括に考える。

次に中止形・テ形の例文を見てみよう。

- ⑥私はそれぞれを紹介し、皆が玄関ポーチに集まって、ちょっとおしゃべりをして。

英語原文：I'll do the introductions, and we'll all engage in a little

small talk on the front porch.

- ⑦あなたのお父さんがハワイでの会議に出席することになる時、あなたは六歳になって、わたしたちはあなたをそこへ連れていくことになるでしょう。

英語原文：You'll be six when your father has a conference to attend in Hawaii, and we'll accompany him.

- ⑧持っていきたい衣類やおもちゃをどっさりスーツケースに詰め込んで、自分で長いあいだ持ち運べるところを見せようと、家中それをひきずってまわってね。

英語原文：You'll pack a suitcase with the clothes and toys you want to bring, and you'll drag it around the house to see how long you can carry it.

- ⑨あなたは、まえの晩に出かけたパーティのことを話しながら、笑い出して。

英語原文：You'll laugh as you tell me about the party you went to last night.

- ⑩その時点では、あなたのおとうさんと私はせいぜい年に一度かそこら話をする程度の間柄になってて。

英語原文：At that point your dad and I will be speaking to each other maybe once a year, tops.

中止形の例文は2例しかなく、例⑥のように基本的に文中に訳されている“will”の対訳形式で、「スル」の文中の表現形式と考えていいだろう。文中のテ形も同じようなもので、基本的に「スル」の文中の表現形式と考えられる。少し性質が違うのは、例⑨、例⑩のような文末のテ形である。このような文末の「テ形」は8例あり、かなり目立つ現象である。テ形で文を終わらせるのは、日本語の口語に特有の現象で、言い切ることを避けて表現を和らげる働きがあるのではないかと思われる。次に、「デショウ」の例を見てみよう。

- ⑪クローゼットから電気掃除機をひっぱりだしながら、にがにがしげにあなたは言うでしょう。

英語原文：You'll say bitterly, dragging the vacuum cleaner out of the closet.

- ⑫あれは日曜日の朝で、わたしはスクランブルエッグをつくって、あなたはブランチのためにテーブルの支度をしているでしょう。

英語原文：It'll be Sunday morning, and I'll be scrambling some eggs while you set the table for brunch.

- ⑬ロクシーがさりげなくあなたに言うでしょう。

英語原文：Roxie will say to you casually,

- ⑭その時点で、あなたは二十五歳になっているでしょう。

英語原文：You'll be twenty-five then.

- ⑮わたしには、そこであなたがしていることは理解できないでしょうし、お金に魅了されるあなたの気持ち、職を提示されたときの交渉であなたが要求した破格の給料についても、やはり理解できないでしょう。

英語原文：I won't understand what you do there, I won't even understand your fascination with money, the preeminence you gave to salary when negotiating job offers.

“will”の対訳形式に、ル形のほか、推量形の「デシヨウ」は最も多く、全体の24%を占めている。「デシヨウ（ダロウ）」は通常判断のモダリティ、特に真偽判断のモダリティを表す典型的な表現とされ、話し手の当該事態に対する非断定の態度を表す。一方、「スル」形は話し手の断定の態度を表す。この二つの形式が何故“will”の対訳形式として融合されているのか、興味深いことである。最後に、「そのほか」の形式について見てみよう。

“will”の対訳形式に「そのほか」の項目があるが、これは「ダ」の判断文や「体言止め」のものを指している。具体的には、次のようなものが挙げられる。

- ⑯そんなものは二の次。

英語原文：…but that will be minor.

⑬あれは、ベルモント・ストリートの家でのこと。

英語原文：That will be in the house on Belmont Street.

⑭あなたはあなたが幸せになれることをすればいいし、わたしがあなたに望むのはそれがすべてなの。

英語原文：You'll do what makes you happy, and that'll be all I ask for.

これらの用例は基本的に英語版原文では“will be”となっているので、日本語に訳される時、自然に動詞文以外のものになっている。基本的に形式上もコンテキストの関係で非過去を表している。

#### 4.2 中国語の具体的な対訳形式

“will”の対訳形式に有標形式の“会”と“将”のほか、述語の無標形式文の3種類の形式がある。この節では具体例を見てみよう。

まず、数量的に最も多く現れる“会”の用例を見てみる。

⑲ “一点没错。” 我会说。

日本語：「そのとおり」と私は応じる。

英語原文：“That’s right,” I’ll say.

⑳ 会有一个勤杂工掀开罩单，露出你的脸。

日本語：用務員がシートをひらいて、あなたの顔をさらして見せる。

英語原文：An orderly will pull the sheet back to reveal your face.

㉑ 过了不多久，内尔森会开车来接我，…

日本語：さほどもなく、ネルソンがわたしを迎えにやってくる。

英語原文：A little later on, Nelson will arrive to pick me up.

㉒ 你会欢喜雀跃，还几个星期前就早早地开始准备。

日本語：あなたはとても興奮して、何週間もまえから旅行のしたくにとりかかるの。

英語原文：You’ll be so excited that you’ll make preparations for

weeks beforehand.

⑳以后，你上高中低年级的时候，我们俩会有一场谈话。那些话我还记得。

日本語：あなたがハイスクールの二年生のときに、ふたりですることになる会話が心に浮かぶ。

英語原文：I remember a conversation we'll have when you're in your junior year of high school.

㉑你的脸会有些不对劲，但我将知道，那就是你。

日本語：あなたの顔はどこかしら変だけど、それがあなたであることはちゃんとわかる。

英語原文：Your face will look wrong somehow, but I'll know it's you.

“会”の用例は、基本的に動詞述語のものが多い。例⑱、㉑、㉒は動作動詞文で、例㉑、㉒は存在動詞「有」文である。しかし、例㉑のような形容詞述語文もある。つまり、この“会”は動作動詞文だけではなく、状態動詞文、形容詞文にも使われ、むしろ「能願動詞」の使用範囲を逸している。この点も、“会”が単純に未来を表す表現に接近する証しと言えよう。全体から見ても、“会”が使われる文は63%を占め、未来を表す場面にかなり頻度が高い表現である。

次に、“将”の用例を見てみよう。

㉓头一位的，当然，将来自登山搜救队。

日本語：一番は、もちろん、山岳救助隊からの電話ということになるでしょう。

英語原文：The first, of course, will be the one from Mountain Rescue.

㉔你的脸会有些不对劲，但我将知道，那就是你。

日本語：あなたの顔はどこかしら変だけど、それがあなたであることはちゃんとわかる。

英語原文：Your face will look wrong somehow, but I'll know it's you.

㉕毕业之后，你将找到工作，成为一个财务分析师。

日本語：そして、卒業式がすむと、あなたは金融アナリストとしての仕事をするために職場をめざすでしょう。

英語原文：And after graduation, you'll be heading for a job as a financial analyst.

⑳那个时候，你爸爸和我之间的关系将会非常冷淡，一年最多通一次话。

日本語：その時点では、あなたのおとうさんと私はせいぜいが年に一度かそこら話をする程度の間柄になってて。

英語原文：At that point your dad and I will be speaking to each other maybe once a year, tops.

“将”の用例は13例で、全体の19%を占めている。例⑳のような“将会”の用例が1例あり、意味上は“将”にさらに近いので、“将”の用例として扱うことにした。この小説の設定では、“会”と“将”はともに確実な未来を表しているので意味上はほぼ区別がない。それにもかかわらず、数量的にはやはり大きな差が見られる。この現象はどういうことを意味しているのか検討する必要がある。

最後に、無標形式の用例を見てみよう。無標形式には3種類があり、それぞれは動詞述語文、“是”文、形容詞述語文である。具体的な例を見てみよう。

㉑他和我一起驾车去辨认尸体，一路长旅，默默无语。

日本語：彼とわたしは身元を確認するためにいっしょに車で出かけ、長い沈黙の道のを過ごすことになる。

英語原文：He and I will drive out together to perform the identification, a long silent car ride.

㉒你还问我能不能在我的行李里帮你带上图画魔板，你的箱子里已经放不下了，而你离了它过不下去。

日本語：あなたのスーツケースにはもうまったく余地がなくなってしまって、それでもまだお絵描きセットは絶対に置いていきたくないからって、わたしのバッグに入れて行ってもらえないかと頼むことになるでしょう。

英語原文：You'll ask me if I can carry your Etch-a-Sketch in my bag, since there won't be any more room for it in yours and you simply can't leave without it.

③① 其实我想的是，你跟我不一样，完全不一样。

日本語：私が思ってるのは、あなたは明らかに、いやって言うほど、わたしとは違ってるとのこと。

英語原文：What I'll think is that you are clearly, maddeningly not me.

③② 那个时候，你是二十五岁。

日本語：その時点で、あなたは二十五歳になっているでしょう。

英語原文：You'll be twenty-five then.

③③ 脸上一本正经。

日本語：なにくわぬ顔をして。

英語原文：Your face will give nothing away.

例②⑨、③⑩は動詞述語文である。例③①、③②は「是」述語文で、例③③は形容詞述語文の用例である。無標形式の例は、全部で12文あり、全体の18%を占めている。有標形式と比較して、かなり少ないことがわかる。

以上、“will”の日本語と中国語の対訳形式について一通り見てきた。対訳形式の割合から見ると、日本語は「スル（ル）」、中国語は“会”が主要形式であることが明らかになった。すなわち、一定の条件のもと、“会”は英語の“will”や日本語の「ル形」と同じように、未来のテンスの表記の働きを担うことになる。このような“会”はどんな特徴があるのか、次の部分で見てみよう。

## 5. 未来を表す“会”の意味機能について

この章では、まず“会”についての従来の関連研究を踏まえた上、“将”、中国語の動詞無標形、「スル」と比較しながら、未来を表す“会”の用法の特徴を見てみたい。

## 5.1 “会”についての関連研究

王 (2016) は、“会”の意味用法について、従来大きく3類に分けられ、Ⅰ類は「能力」、Ⅱ類は「長じている」、Ⅲ類は「能力」、「長じている」以外の用法のものであることを述べている。従来、「蓋然性、可能性」を表す“会”はⅢ類の“会”であり、筆者が研究対象にしている話し手の意志を表す“会”及び未来を表す“会”もⅢ類の“会”である。

Ⅲ類の“会”について、王 (暁凌) (2007) では詳しく取り上げ、“会”の基本的な意味特徴は非現実性としている。これも本論文の“会”の意味特徴についての考えと通じている。一方、王 (2016) では、「“会”の本質は『ある条件のもとで、事態が生起する』(p. 236)」とし、「“会”で述べられる事態の種類を万遍なく考察し、種類ごとに仮説を検証した (p. 237)」と述べている。更に、王 (2016) は“会”を基本的に命題を表す表現と考え、「話し手の推測や意志などの文脈による主観的な意味が読み取れる場合、“会”はモダリティにずれ込むと考える。(p. 236)」

王 (2016) は意味用法が多様多様なⅢ類の“会”に対し、統一する解釈を試み、文の内的関係における“会”の働きに注目した。「ある条件のもとで、事態が生起する」という“会”の本質の説明は、「条件」の意味を広くし、多様的に解釈すれば、確かにいろんな場面に対応できるけれども、話者の主観性や、伝達意図等が無視される恐れがある。Ⅲ類の“会”の最も重要な部分は、話し手の主観性を表すところにあると考えられる。

## 5.2 “will”の中国語の対訳形式における“会”——“将”・中国語の動詞無標形との比較

この節では主に“will”の中国語の対訳形式に見られた二つの疑問を解決したい。一つは、有標形式のうち、何故“会”は典型的な未来表現とされる“将”より多く現れたのかという問題である。もう一つは、有標形式の“会”と“将”に比べて、何故無標形式の割合はこんなに低いのかという問題である。日本語の対訳形式では無標形式がかなり高い割合を占めているが、それに対し、中国語の無標形式はそれほど存在感がなかった。

まず、“会”と“将”について見てみよう。今回の調査結果は、“will”の

対訳形式に“会”が63%、“将”が19%の割合を占めている。何故典型的な未来を表す“将”より、“会”が多く選択されているのか、これは文体に大きく関係しているのではないと思われる。というのは、今回の言語資料は聞き手に話しかけるような口語体のもので、発話主体が特定の相手に語りかけるものである。このような口語体の表現には必然的に主観的な表現が求められる。“将”は、“会”と比べて、より客観的な表現である。その根拠は次の通りである。

まず語の性質から見ると、“将”は時間副詞で、“会”は助動詞である。“将”の特徴について張莉（2014）は次のように述べている。

「“時間副詞”“将”は『人民日報』で非常に頻繁に使用されている。“将”は動作行為が発生する未来の時間を表し、上古時代で既に未来時間の文法化過程を完了し、現在は非口語体で使用される傾向があり、しかも「これらの文の主語は非会話参加者、すなわち、主語が第三人称か指事か指事主語か、第一人称あるいは第二人称の可能性があまりない」。出来事を報道する記事の文体は一般に比較的正式な書面語を使用するので、書面語が中心となる『人民日報』の未来のテンスの表現手段のうちに“将”の使用頻度が最も高い。」<sup>3</sup>

（張 2014：68）

一方、“会”は、能願動詞として話し手の認識・判断を表すモダリティ表現で、話し手の主観的な態度を表すものなので、客観的に未来の時間を表す“将”よりは主観性の高い表現となる。従って、未来の決まった動作事態にもかかわらず、話し手の心内世界を表す口語体的な表現では、“会”がより多く選択されている。しかし、それでも“将”が19%の割合を占めているのは、やはり確実性の高い未来の事態についての描写だからである。完全に“将”を“会”にすることもできるが、そうすると、表現が単調になるだけでなく、確実な未来という印象もやや薄れるだろう。“将”について、最も疑問を感じたのは、その現れる位置である。王晓凌（2007）によると、“将”は一人称や二人称以外の行為や事態に現れやすいと述べているが、今回の調

査ではこのような傾向が見られなかった。例えば、上述の例②⑥②⑦のような一人称や二人称主語の文にも“将”が数多くあった。

②⑥你的脸会有些不对劲，但我将知道，那就是你。

日本語：あなたの顔はどこかしら変だけど、それがあなたであることはちゃんとわかる。

英語原文：Your face will look wrong somehow, but I'll know it's you.

②⑦毕业之后，你将找到工作，成为一个财务分析师。

日本語：そして、卒業式がすむと、あなたは金融アナリストとしての仕事をするために職場をめざすでしょう。

英語原文：And after graduation, you'll be heading for a job as a financial analyst.

確実な未来という限定的なコンテキストの中で、“将”が現れる位置には特に制限がないことから、“会”と“将”は未来の行為・事態を表す点において、意味上では特に区別されることがわかった。

次に、有標形式の“会”、“将”と比べて、何故中国語の無標形式、特に無標動詞文の割合が少ないのかについて見てみる。今回の調査の結果では、無標形式は68文のうち12文あり、状態・属性を表す“是”文や形容詞文以外に、動詞無標形式は8文である。

楊永娟（2010）では中日動詞時制表現についての対照研究を行い、「日本語の『ル形』に対応した中国語は中国語の原形動詞を使う。すなわち、中国語の原形動詞は（進行中の現在を除く）一般現在のテンスと未来のテンスを表すことができる。（p. 13）」と述べているが、筆者は違う意見を持つ。孫（2018a）では、「スル」と中国語の動詞無標形について、次のように述べている。

日本語の動詞無標形「スル」は未来の動作を表す非現実性を備え、一定の条件を備えると、そのまま意志表現になるが、中国語の動詞無標形は非現実性を持っておらず、そのままの形で未来の動作を表すことができ

ない。意志のモダリティを表す文の意味的構造における中国語の動詞無標形の非現実性は、未来時制を表す時間副詞や非現実性を備える文末表現、または文脈や場面によって与えられている。(p. 104-p. 105)

上述の内容は意志表現に関する中国語動詞無標形の特徴であるが、未来を表す場合の中国語の動詞無標形にも同じことが言えよう。というのは、今回の調査で明らかになったのは、未来のシーンに現れる中国語の動詞無標形の文は、日本語の「スル」形式に数量的に対応していないということである。更に、その現れる場所から見ると、有標形式の“会”文や“将”文の後の場合が殆どである。

③④ 我和内尔森向他的车子走去，我在前头，他跟在后面。

日本語：私とネルソンは彼の車まで歩いていき、私は前、彼は後ろ<sup>4</sup>。

英語原文：As I lead Nelson toward his car, he'll ask me, amused, …

③⑤ “我的感觉是，今晚大热。妈，幸好你穿得不多，跟晚上的气温挺合拍。”  
我会狠狠瞪你一眼，说一声再见。我和内尔森向他的车子走去，我在前头，他跟在后面。他会笑着问我：“你们打什么哑谜？”

日本語：「焼けるほど熱くなりそうな感じがするわ。それに合う服を着ててよかったわね、ママ」わたしはあなたをにらみつけてから、お休みを言う。先に立ってネルソンの車へ歩いているとき、彼が面白がっているような感じでこうたずねてくる。「僕は何かを見落としているんじゃないかな？」

英語原文：“I get the feeling it's going to be a scorcher. Good thing you're dressed for it, Mom.”

I'll glare at you, and say gooo night.

As I lead Nelson toward his car, he'll ask me, amused,  
“I'm missing something here, aren't I”

例③④は典型的な動詞無標形の表現である。この文は時間詞等のテンスを提示する表現がないので、単独で見ると実現した事態なのか、現在の事態なの

か、これからの事態なのか、まったく判断できない。しかし、実際、例⑤を見てみると、例④の前後には“会”が使われた文があり、未来に発生する行為・事態だという意味は文脈によって与えられていることがわかる。従って、そもそも非現実性を持たない中国語の動詞無標形は未来を表す場面において、非常に限定的な表現になり、常にコンテキストや付加表現によって未来の時間性を与えられることを求める。これが、今回の調査結果に中国語の動詞無標文が少ない理由である。

以上、他の対訳形式との比較を通じて、“会”の「主観性が高い」及び「非現実性を持つ」という二つの基本的な特徴について確認した。次の節では、詳しく言及していない未来を表す“会”の性質と特徴を、日本語の表現とも比較しながら見てみよう。

### 5.3 未来を表す用法にみられる“会”の意味機能——「スル」・「デショウ」との比較

今回の調査の資料は未来の事態について一人称で語られているものなので、ここで“会”が用いられている理由は基本的に、非現実性を持ち、且つ聞き手めあての表現だからである。しかし、ここの「非現実性」は具体的にどんな意味なのか、聞き手へはどんな伝達機能を持っているのか、明らかにする必要がある。

#### (1) “会”の非現実性

相原（1996）では、能願動詞の“会”が「蓋然性」を表す用法を持つとしている。劉（2001）では能願動詞“会”の意味について、能力のほか、「可能性」を表すとしている。Ⅲ類の“会”についてこのような考え方は一般的に認められている。「蓋然性」を表す用法は、モダリティから言えば、真偽判断のモダリティになる。益岡（2007）では真偽判断のモダリティについて、次のように述べている。

真偽判断のモダリティの体系は、述語の無標形式による「断定」と有標形式による「非断定」の対立からなる。この対立における無標形式は当

該の事態が真であるという断定の判断を表し、有標形式は当該の事態が真であるとはみなし得ないという非断定の判断を表す。非断定の判断は、断定こそできないものの何らかの判断は下すという「定判断」と、真偽の判断が全く下せない「不定判断」に大別される。このうち、定判断には「断定保留」、「蓋然性判断」、「証拠性判断」、「当然性判断」という4つの下位類がある。(p. 144)

上述の内容から考えると、“会”は真偽判断のモダリティを表す有標形式として、「断定」を表す日本語の「スル」と違い、非断定の「蓋然性判断」を表す表現となる。しかし、今回の未来を表す“会”と「スル」が使用される前提条件は、未発生でありながらも既に確実に実現する未来なので、ここでの“会”は話し手の事態に対する真偽判断ではなく、単純に「現時点で事態が未発生」であることを表すものではないかと思われる。更に、話し手は事態の真偽について判断はしていないものの、「当該事態が未来に確実に発生する」という断定は「スル」と同じように行っている。従って、確実な未来を表す“会”は「話し手が発話時より未来の事態の発生を断定する」という意味を表す。

前節では、今回の言語資料の中に、より客観的な表現の“将”が“会”より少ない理由として、“会”はより主観性が高い表現だからだと述べた。この主観性とは、事態の発生に対して、客観的に述べるのではなく、話し手の情報として断定する形式で伝えることを指す。“将”が用いられる場合は、未来に発生する事態のみの描写となるが、“会”が使われることによって、その事態は話し手が断定しているものだと伝えていて、語り手の存在を常に表に出している。同じように、“会”は「スル」と比べても、話し手の主観性が高い表現となる。というのは、「スル」による断定表現は、話し手の判断による断定の場合と話し手の判断によらず必然的に発生する事実の二つの意味がある。しかし、“会”は対象事態を話し手の私的領域に引きずりこみ、話し手による判断であるという意味を帯びる形になっている。

③⑥你的脸会有些不对劲。(状態に対する断定)

日本語：あなたの顔はどこかしら変だ。

③7 你的脸有些不对劲。(状態に対する描写)

日本語：あなたの顔はどこかしら変だ。

この点について、「デショウ」にも同じような現象が見られる。「スル」と「ダロウ」は基本的に「断定—非断定」という対立の関係にある。しかし、今回選んだ資料は決まった未来という前提で、話し手が完全に断定できる状況にあるにも関わらず、日本語版ではかなり高い頻度で「デショウ」が現れている。これは、話し手自身の存在（話し手の主観性）を強調したいからだろう。

ここまで、未来を表す“会”の非現実性を検討してきた。結論として、確実な未来を表す“会”は“将”のような単純に未来時間を表す表現ではなく、「話し手が発話時より先の事態の発生を断定する」という意味を表すモダリティ表現である。

## (2) 聞き手への伝達機能

言語資料のうち、“会”で表す文は、日本語では「スル」だけではなく、「デショウ」になる場合も多い。

③8 (中国語) “这是我们母女俩之间的事儿，” 我会恨恨地说，…

(日本語) 「内輪のジョークよ」つぶやくように、わたしは言うでしょう。

英語原文： “A private joke,” I’ll mutter.

③9 (中国語) 我不会理解你的工作，也不会理解你怎么对钱那么感兴趣，找工作时那么看重薪水。

(日本語) わたしには、そこであなたがしていることは理解できないでしょうし、お金に魅了されるあなたの気持ち、職を提示されたときの交渉であなたが要求した破格の給料についても、やはり理解できないでしょう。

英語原文： I won’t understand what you do there, I won’t even understand your fascination with money, the preeminence

you gave to salary when negotiating job offers.

④⑩(中国語) 说这话时你会很生气, 一边说, 一边从壁橱里往外拽着吸尘器。

(日本語) クローゼットから電気掃除機をひっぱりだしながら、にがにがしげにあなたは言うでしょう。

英語原文: You'll say bitterly, dragging the vacuum cleaner out of the closet.

「デショウ」が多く現れる理由について、次のように考える。この小説は、特に未来にかかわる部分は、母が娘に話しかけるような文体のものであり、「スル」という断定の形ばかりで表現すれば、かなり一方的な表現になってしまうだろう。更に、語る内容は、話し手の縄張り以外に属する聞き手や第三者の動作と状態も多いため、聞き手配慮という意味で、断定できる事態でも非断定の「デショウ」を取っているのだろう。日本語の例⑪(④⑩)、⑫～⑭のように、話し手以外の事態の場合、「デショウ」が多く現れている。一方、数少ないが、前述の例⑮(③⑨)、次の例⑱のような話し手自身の関係する事態にも「デショウ」が使われている。これは完全に聞き手配慮の文末表現だと思われる。

⑱わたしたちはあなたをそこへ連れていくことになるでしょう。

一方、“会”にはこのような聞き手配慮の働きを持つとは判断できないが、その使用が聞き手と緊密に関係していることは確実である。孫(2018b)では、“会”による発話は聞き手との関係において、「聞き手への行為の実行の約束、働きかけを持たない」(p. 37)と述べた。聞き手との関係について、未来を表す“会”も同じような働きを持つと考えられる。“会”は客観的な事態について話し手が断定するという形で伝えることによって、聞き手に事態が確実に発生することを約束するという効力を持つ。このような“会”は特に語り手自身の動作や聞き手の動作を表す場面に多く現れている。

⑲“说起这种事儿, 我有第六感。”你会这么说, 我会狠狠瞪你一眼, 说

一声再见。

日本語：「あたし、こういうことには第六感が働くの」とあなたは言う。  
わたしはあなたをにらみつけてから、お休みを言う。

英語原文：“I get the feeling it’s going to be a scorcher. Good thing you’re dressed for it, Mom.”  
I’ll glare at you, and say good night.

しかし、“将”と動詞無標形にはこのような聞き手への伝達機能が見られない。次の例文のように、“将”と動詞無標形は心理描写や状態描写、または聞き手に客観的に情報を伝える時に多く使われている。

④③这件事将再一次提醒我，你不是我的复制品。

日本語：そのことはまたもや、あなたはわたしのクローンにはならないということ思い起こさせてくれるでしょう。

英語原文：It will remind me, again, that you won’t be a clone of me

④④可你的小嘴还是嘬得老高。

日本語：あなたは口をとんがらせるだけでしょ。

英語原文：You’ll just pout.

④⑤毕业之后，你将找到工作，成为一个财务分析师。

日本語：そして、卒業式がすむと、あなたは金融アナリストとしての仕事をするために職場をめざすでしょう。

英語原文：And after graduation, you’ll be heading for a job as a financial analyst.

実際に、上述の二つの特徴は、預言・予測を表す“会”にも反映されている。特定の聞き手に占いまたは予言を伝えるとき、“会”も多く使われる。

④⑥(女巫师的占卜) 下星期五下午三点四十五分去河流的弯道。你们会在那里的佛塔前找到她。她身上会有蓝色的标记：一个在手臂下方，另一个在胸口<sup>5</sup>。

日本語：(女性占い師の占い) 来週午後の三時四十五分に川の曲がる  
ところに行きなさい。あなたたちはそこの仏塔の前に彼女を  
見つけるでしょう。彼女の体に紺色の標識がある：一つは腕  
の下、もう一つは胸<sup>6</sup>。

### (3) 未来を表す“会”と意志を表す“会”との関係

孫(2018b)では、意志を表す“会”の成立条件として「話し手が動作の主体で、発話時の未実現の意志的動作を扱う」(p. 32)と述べ、その意味機能の特徴は次の三つにまとめている。

- i. 意志が形成するきっかけが聞き手である。
- ii. 聞き手に行為の実行や事態の実現を約束する発話の機能を持つ。
- iii. 行為の実行や事態の実現を未来のある場面に預けるので、曖昧な意志表現となる。(孫 2018b: 42)

上述の内容から、未来を表す“会”は、基本的に「未来の動作・事態を扱う」点と、「聞き手への伝達機能」という点において、話し手の意志を表す“会”と同じである。しかし、未来を表す“会”は実際の使用においては、話し手の意志を表す“会”ほど制限が多くない。具体的には、未来を表す“会”の場合、話し手が動作・行為の主体である必要がないし、また動作・行為が意志的なものである必要もないという点が挙げられる。つまり、未来を表す“会”と話し手の意志を表す“会”との根本的な違いは、「話し手の意志」が入っているかどうかという点である。すなわち、“会”が扱う事態は、話し手の意志的な動作・行為である場合に、意志表現となる。広く言えば、意志を表す“会”も未来の動作・事態を扱うので、未来を表す表現の1つと言えよう。両者は包括と包括される関係にあると思われる。次の例文は、未来の予定と考えてもよいし、話し手の意志と考えてもよい発話である。

④<sup>7</sup>我十二点之前会回来。

日本語：私は十二時までには帰る<sup>7</sup>。

#### 5.4 “会”がこれまで未来を表す文法形式として挙げられなかった理由

未来を表す表現について中国語と英語の対照研究では“会”がよく取り上げられる傾向が見られるけれども、従来の中国語研究では“会”の未来を表す用法はそれほど注目されていない。原因は次のいくつかの点が考えられる。

まず、今回の研究で注目している“会”の確実な未来を表す用法は、聞き手の存在する会話文に多く見られる。従来の研究では、発話や会話データを中心にした未来を表す表現についての考察は少ない。

次に、“会”は認識のモダリティを表す表現として、話し手の主観性が比較的高い表現である。比較すると、客観的に未来の時間を表す「将」や、話し手の予測の意味を強く出す「要」が典型的な未来を表す表現として認められやすいのに対し、“会”の未来を表す用法は認識のモダリティ（蓋然性のモダリティ）を表す用法から派生したもので、「蓋然性」を表す用法に帰結される傾向がある。

しかし、本研究は“会”を未来を表す表現として認めるべきだという立場をとる。“会”はいかなる状況でも非現実性を備え、動作動詞述語文では殆ど発話時（参照時間）以降のある行為・事態の発生を表す。また、未来のテンスを表す英語の“will”と日本語の「スル」の対訳として、かなり高い頻度で“会”が現れる。外国語教育としての中国語を考える時、“会”の未来を表す用法を認めることは有意義だと思われる。

## 6. 終わりに

本研究は、未来のテンスを表す英語の“will”の中国語対訳形式に“会”がたくさん現れる現象を注目し、未来を表す“会”の用法について考察した。確実な未来のシーンに使われる“会”の特徴を探るため、中国語の“将”、動詞無標形、日本語の「スル」「デショウ」との比較も取り入れた。結論として、確実な未来を表す“会”は単純に未来の時間を表すのではなく、話し手の主観性を前面に出すモダリティ表現で、「話し手が未来の事態の発生を断定する」という意味を表す。更に、話し手の意志を表す“会”と同様に、聞き手への「事態の発生を約束する」という伝達機能を持つ。

本研究は確実な未来の事態について一人称による語り文という限定的な言

語資料を用いて、“会”の用法について考察を行った。英語からの翻訳及びかなり特殊な背景設定のものと言語資料なので、未来を表す“会”の特徴がより際立つ一方、他の場面における本研究の有効性が検証されていない欠点もある。今後更に未来のテンスにかかわる他の場面の用例を取り入れ、検証していく必要がある。また、今回は未来標識としての“要”等の表現との比較が本論文ではできなかったが、それも今後の研究で行いたい。そして更に、未来を表す“会”と、典型的な「蓋然性」を表す“会”の関係についても明らかにしたい。

## 注

- 1 「デショウ」は推量形の「ダロウ」の丁寧体の形式で、動詞のムードを表すものである。ムードは、動詞のしめす運動を、はなし手が現実と関係づけることにかかわる文法的なカテゴリーである（高橋 2005）。テンスと直接かわりがないが、ここで対訳形式の有標形式として取り上げたのは、数量的に多く存在することと未来のテンスにムードやモダリティと関係していると考えているからである。
- 2 例文の出典について特に説明していないものは、『あなたの人生の物語』のものである。
- 3 この部分は筆者による日本語訳である。“これらの文の主語は非会話参加者、すなわち、主語が第三人称か指事か指事主語か、第一人称あるいは第二人称の可能性があまりない”という文は張（2014）が王（曉凌）（2007）から引用したものである。
- 4 この例文の日本語訳は作者による直訳である。日本語版は例⑤の日本語で書いてあるように、直訳されていない。
- 5 例文出典：《占卜师的预言》蒂齐亚诺·泰尔扎尼著 潜彬思译 人民文学出版社
- 6 日本語訳は筆者によるものである。
- 7 筆者の作例。

## 用例出典（注釈で示されていないもの）：

“Story of Your Life” *Stories of Your Life and Others*, Ted Chiang, Tor Books  
『あなたの人生の物語』 テッド・チャン（著）公手成幸他（翻訳）、ハヤカワ文庫 SF

《你一生的故事》特德·姜著 李克勤译 译林出版社

## 参考文献

### 〈中国語文献（ピンインローマ字順）〉

- 梁雪梅 2012 英汉将来表达方式语义特征规律探析《海外英语》  
刘月华等 2001 《实用现代汉语语法（增订本）》商务印书馆  
王晓凌 2007 “会”与非现实《语言教学与研究》第1期  
于秀金 2014 英汉语中的现实相关性与时间距离性《外语教学与研究》第46卷第3期  
张莉 2014 现代汉语将来时制的表现手段《上饶师范学院学报》第34卷第1期  
张万禾·石毓秀 2008 现代汉语的将来时范畴《汉语学习》第5期

### 〈日本語文献（五十音順）〉

- 相原茂・石田知子・戸沼市子. 1996. 『中国語の文法書』同学社.  
庵功雄. 2019. 「意味領域から考える日本語のテンス・アスペクト体系の記述: 「母語の知識を活かした日本語教育」のために」『言語文化』55, 3-18. 一橋大学.  
王其莉. 2015. 「中国語の“会”に関する一考察——『I. 能力』『II. 長じる』ではない第Ⅲ類の“会”を中心に」『日中言語対照研究論集』第17号, 135-153.  
王其莉. 2016. 『判断のモダリティに関する日中対照研究』ひつじ書房.  
工藤真由美. 1995. 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房.  
孫樹喬. 2018a. 『意志表現をめぐる日中対照研究』（佛教大学研究叢書32）. 東方書店.  
孫樹喬. 2018b. 「意志のモダリティを表す「会」の意味機能」『文学部論集』第102号, 27-43. 佛教大学.  
高橋太郎他. 2005. 『日本語の文法』ひつじ書房  
仁田義雄. 1997. 『日本語文法研究序説－日本語の記述文法を目指して－』くろしお出版.  
仁田義雄. 2019. 「「する」が未来を表す場合」『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第1巻——「する」の世界』53-73. ひつじ書房.  
日本記述文法研究会. 2007. 『現代日本語文法3 アスペクト・テンス・肯否』くろしお出版.  
益岡隆志. 2002. 「定表現と非定表現と不定表現」『国語論究10 現代日本語の文法研究』68-92. 明治書院.  
益岡隆志. 2007. 『日本語モダリティ探究』くろしお出版.

## 从中日对照来看表述未来的表达 ——以“会”为中心

孫 樹 喬

关键词：中日对照 未来 会 スル 将 动词无标形

### 提要

本研究在调查与将来情境有关的第一人称叙述的口语体小说时发现，其英文版中表述未来必然发生的事件时使用的英文“will”在中文版中翻译成“会”的频率非常高。为了明确将来语义的“会”的特征，作者调查了该语料的中文版和日文版中“will”所对应的形式，并发现在各自语言的对译形式中“ル形”和“会”所占比例最高。在分析调查结果的基础上，本论文以“会”为中心，首先将其与其他汉语对译形式进行对比，明确了“会”的基本性质。其次，将“会”与日语的“ル形（スル）”、“デショウ”进行对比，进一步考察了表示未来语义的“会”的语义特征。考察结果为：表示未来语义的“会”并不是单纯的将来标记，其具有主观性，是一种情态表达，但因其具备非现实性，所以在表达未来语义时有不可替代的作用。另外，“会”还具有“保证事态发生”的话语的人际功能。

